

自己評価および外部評価結果

新松戸グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日午前午後の引き継ぎを兼ねて短時間でのミーティングを実施。利用者の日々のサービスについて確認している	管理者がフロアでの引き継ぎ時に話した事は連絡帳でスタッフと共有している	事業所の理念の共有に向けて引き継ぎのミーティング以外にも管理者と職員との更なる話し合いと交流の場をもつことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会および高齢者福祉連絡協議会に所属し、勉強会等に積極的に参加、また防災時に備え合同訓練、ホームの果たす役割等も決めている。	新松戸祭り、盆踊り、運動会、クリスマス行事、会食会など町内の行事に利用者が参加して地域の人との交流をはかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのロビーを利用し地域の方に呼びかけ市の出前講座を招き「認知症を正しく知ろう」等の研修を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回の会議を開き町会長、包括支援センター職員、家族代表、利用者代表の構成で実施している。	年4回の運営推進会議の話し合いの中で入居者の楽しみにしている食事サービスの向上についても話し合い実現に努めている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス内容等については、月1回介護相談員から市の方に報告している。また市が主催する三者懇談会(市、事業所、相談員)で情報交換や提供を行っている。	市、相談員、事業所の三者懇談会で利用者視点での意見、情報交換を行い利用者の本音を大切にケアサービスの向上に取り組んでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、アンケートや意識調査などで理解を深めている。入口は自動ドアであるが出口のみ交通事情により施錠している。	リーダーを構成員とする身体拘束委員会を年間3~4回開催し、職員対象にマニュアルに沿った意識調査を行い、身体拘束に対する理解を深める努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県・市主催の研修に参加し、研修内容を全職員に回覧して。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する研修に参加し、その報告はしているが実際的には制度を利用される方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当職員が十分説明している。又、機会がある毎に(来訪時)質問に関しては十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケート結果に基づき内容について検討し、可能な限り実現させている。	利用者や家族の意見は事あるごとに各職員に報告し検討している。社会現象も含め必要と思われる内をも検討し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニテイBOXを設置している。ミニ会議に於いても意見収集している。	コミュニテイBOXやミニ会議での意見、提案を基に検討し事業所のサービスに反映させる取り組みをしている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所が特にアピールしている点でもあり、日頃から務めている。その結果退職者が少ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を始めとし各研修に全ての従事者が研修できるよう実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市G、H連絡協議会主催による研修が年何度かあり、各G、Hの見学研修等も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日のように訪問し可能な限り要望に応えるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間を問わず面会していただき、ゆったりと時間を取り傾聴している。また、話しやすい居室やサロンの環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアハウス等、その人に合ったサービスを紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別の対応に重点を置き実施している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話しかけを多くし傾聴する中で利用者を理解し支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら友人・知人の面会を設けている	家族、知人の関係継続についての支援を行い面会に訪れた方にはゲストとして大切に扱っている。なじみの場所への外出にも職員がついて対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットにとらわれず、気の合う利用者同士での行事の参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各関係機関への問い合わせ等相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族も含めた話し合いを来訪時に行っている。	あらゆる機会をとらえて話しかけ傾聴を繰り返し重ねることで本人の意向の把握に努めている。センター方式を利用して、意向の把握が困難な入居者の希望の実現にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース会議、フロア会議においてサービスの確認や見直しを含め看護師、ケアマネ等含めトータル的な暮らしの支援に勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議の開催、計画書は毎日見れる場所に綴り、日常の中で反映している。	家族、介護相談員、スタッフの情報により、入居時より状況が向上することを目標に、個々人の状況に合わせて介護計画の見直しを3カ月より適宜短縮して行っている。	利用者が日々の生活で楽しみややりたいことを見いだせるように更なる進化を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録している個人ファイルは、どの職員が記録しても良いことになっており情報の共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との話し合いや御本人の意向も取り入れながら個別のサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に地域の協議会や消防、教育機関などと協力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり、主治医が違う方についてはその都度家族と共に主治医の所で受診している	それぞれの家族との話し合いの中で出来るだけ家族の希望に沿って協力出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が在職している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会は必ず行っている。看護師が病院側と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの同意書を作成し医師や家族、ご本人及びフタッフ同伴で話し合い支援に取り組んでいる。また終末期に対する支援のための園内研修もおこなっている。	終末期に向けた家族、医師、各階のリーダーとで、同意書作成に至る話し合いを重ね、理解、協力、支援による連携体制を確立している。既に7名の方を看送りし、家族の希望に添った看取りができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年4回の避難訓練を行い、消防職員立会もと蘇生法および避難訓練の訓練等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の連絡協議会に所属し地域との災害等の協力体制を行っている	高齢者連絡協議会の中で事業所としても協力出来ることを地域の中で目指している。	3ユニットであり、特に夜間の災害には地域の協力なしには対応が困難であり、地域連携は欠かせない課題である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルにて、その人に合った言葉使い(方言)等を用いて対応している。	生まれ育った地域の言葉等使い、話しやすい空気を作り楽しく、過ごしてもらう	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけは常に行っているものの重度の方には言葉の理解が困難な為、スキンシップ等で確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご意見を取り入れ出来るだけ希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれの仕方を支援している。化粧やマニキュア、ヘアカラー等美容院に付き添い、生きていることへの楽しみを感じてもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時折嗜好調査や誕生日には御本人の好きな物を提供している。重度化のため食事の準備は困難であるが食の楽しみを感じてくれるよう支援している。	日本食風が得意なスタッフが週2日、洋食風が得意なスタッフが週5日で交互に担当し変化をつけ入居者は食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれのチェック表を作成しその人に合わせた水分(ジュース、お茶、コーヒー等)を提供し取りやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア(歯磨き)や本歯のない方への口腔ティッシュ等の使用により口臭や虫歯等の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき個人に合わせている対応をしている(現状維持)	排泄時に異性に抵抗のある入居者にも合わせた対応につとめている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中で工夫し、個別に散歩等の実施等で取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は全体として設定されているが深さの調整等個別への対応やカーテンを取りつけて明るい雰囲気になっている。	入浴の曜日はだいたいきめている。カーテンの取り付けで入浴時のプライバシーの質の向上につながっている。	入居者の入浴時の希望がもう少し広がって、かなえられる事を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やドライブ・喫茶などで外出し気分転換を図っている。また外出の難しい方にはホーム内を散歩することで身体を動かし適度な運動量で安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指示通りの服薬ができるよう看護師が管理しているが、その日の様子、状態を報告し、月2回の往診時に医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫の出来る方には、自分のものの繕いのほか雑巾、布巾を塗っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望である外出の機会を増やす為に職員の増員も実施した。これによりかなり外出量を増やすことが出来、利用者の要望に応えることができた。	スタッフの増員により入居者には散歩に行きやすい状況となり楽しみが増えていることが利用者アンケートからもうかがえる。利用者の満足度を高めるための事業所の積極的な取り組みは評価できる。	散歩以外の外出の要望にも応えられることが好ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は、ホームで行っているものの御本人の希望に沿って買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能の方には付き添い支援している。届け物についてのお礼等もホームの電話を利用され楽しませている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃は欠かさず行い壁面等の装飾も考えている。	四季折々の入居者の作品、写真等で、心地よい共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽だまりの所には椅子を置きくつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、好みのものや希望の物は置こう配慮している。	安全を第一に考え、家族との協力を得て、落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に、生活し易い段差の解消等で支援し、手を出さず、口を出さず残存機能を活かされるよう見守り支援している。		